

Cnidium officinale Makino の名を與へられた。しかしこの名は其前年草木圖説増訂のとき既に公表されている。それから Em. Perrot et Paul Hurrier の著 *Matière Médicale et Pharmacopée Sino-Annamites* (1907) では *Conioselinum univittatum* Turcz. 即ミヤマセンキウの名をこのものに使つて居る。こゝで明かになつことは *Conioselinum* と *Cnidium* の二説あることである、それから中國で古來この名でよぶものは決して特定の一種でないことは、本草綱目其他で明白であるから、こんな點でも川芎を解明する必要がある様に思はれることをついでに附記する。

○學名訂正四件 (北川政夫)——M. KITAGAWA, Nomenclatorial corrections.

私が以前發表した滿洲產新植物の内 コウアンフシグロ、コマメワウギ及シロキジムシロの3種は先行名が既にあつたので茲に訂正する次第である。即ち次の如くである。

1) **Melandrium brachypetalum** Fenzl in Ledebour, Fl. Ross. 1: 326 (1842); Tolmatshev in Komarov, Fl. URSS. 6: 722, t. 45 f. 7 (1936).

Lychmis brachypetala Hornemann, Hort. Haf. Suppl. 51 (1819).

Melandrium irikutense Kitagawa in Bot. Mag. Tokyo 48: 95 (1934): Lineam. Fl. Manch. 200 (1939) — syn. nov.

Nom. Jap. Kōan-fusiguro.

Area Geogr. Siberia, Asia media, Mongolia, Manshuria & Kamtschatka.

2) **Astragalus olopterus** De Candolle, Prodr. 2: 284 (1825); Ledebour, Fl. Ross. 1: 617 (in nota) (1843).

Astragalus Satoi Kitagawa in Bot. Mag. Tokyo 48: 99, f. 12 (1934): Lineam. Fl. Manch. 281 (1939). — syn. nov.

Nom. Jap. Kogome-wōgi.

Area Geogr. Mongolia, Dahuria & Manshuria.

3) **Potentilla inquinans** Turczaninow in Bull. Soc. Nat. Mosc. 16: 624 (1843); Juzepczuk in Komarov, Fl. URSS. 10: 95, t. 9, f. 1 (1941).

Potentilla Saviczii Schischkin & Komarov in Not. Syst. ex Herb. Hort. Bot. Princ. URSS 6: 11 (1926).

Potentilla Okuboi Kitagawa in Rep. Int. Sci. Res. Manch. 1: 258, f. 1 b, t. 1 f. 1 (1937); Lineam. Fl. Manch. 266 (1939) — syn. nov.

Nom. Jap. Siro-kijimusiro.

Area Geogr. Siberia orient., Ochotk., Ussuri & Manshuria.

尙今一つ訂正すべきものは私が「第一次滿蒙學術調査研究要報告」第4部第4編に於て、イヌゲンゲ屬の名を改正したが、其屬名の綴りが文法的に誤つてゐたので直した。

Amblyotropis Kitagawa emend.

Gueldenstaedtia (non Necker 1790) Fischer in Mém. Soc. Nat. Mosc. 6: 170 (1823); Taubert in Engler & Prantl. Nat. Pfl.-fam. 3-3: 284 (1891).

Amblyotropis Kitagawa in Rep. First Sci. Exp. Manch. 4-4: 26 nomen, 87 cum syn. (1936).

○東西の植物の見立方の一致 (津山尙)——T. TUYAMA, Some analogy of Japanese and foreign plant names.

日本と歐米とで同様な植物に対する見立が似たものがよくある。本誌でも嘗てウマノアシガタが實はトリノアシガタが本當で、ドイツでの見立と同じものであらうと論ぜられたことがあつた。ドチカガミはスツボンの鏡の意であつて一名カヘルエンザ(蛙圓座)とも言ひ、蛙にも縁の深い植物であるが、この學名 *Hydrocharis morsus-ranae* の種名は英語名 frog-bit に通じこれ又蛙に縁がある。先に 前川博士は和名の起源に關して日本植物學會で講演してブナノキがソバノキと呼ばれるのはソバ(別名ソバムギ)と同様にその果實に鋭い稜(ソバ)があることによると説明した。所がソバ屬の學名 *Fagopyrum* が *Fagus* と *pyron* 即ちブナノキの果實に似た小麥の意になつてゐるのも面白い。ツユクサは普通は day flower の名で呼ばれるが米國では dew plant とも呼ばれてゐる。尤もツユクサは 18 世紀に東洋から歐洲に輸入されたものが更に米國で野生化したものと言はれるから、その間に名稱上の交流があつたのか、或は見立の偶然の一致なのかは今の所わからない。

○この頃米國で Liberty Hyde Bailey: A story of American plant sciences という伝記を Rodgers, A. D. 氏が書いた。Bailey さんは有名な園藝辭典の大著を世に送つた人であるが、本年 92 才の高齡だけれども、大変元気で New York 州の Ithaca で、今でも野外採集もやればたくさんの研究報告も出し、若者を凌ぐ勢である。この本の副題が示すように個人の経歴がその國の學問の分野の發展史でもあるというのは何としてもめでたいことである。

本誌を創始された牧野富太郎先生も本年 88 才の米壽を迎えられた。この春に一時危険な状態になられたが、幸に死線を越えられて昨今は以前の御壯健にもどられつゝあるのはこれ亦喜ばしいことである。

本誌では先生の米壽を御祝いする意味で、記念号の刊行をくわだて、津村重舎氏の御援助をえて準備が進んでいる。年内には多くの學者が先生にお祝いの意をこめて書いた珠玉の論文を満載して皆さんに御目にかけられる予定である。御期待あらんことを。